

2021年6月期
第2四半期 決算説明資料



証券コード1382

株式会社 ホーブ

2021年2月24日



会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	1987年6月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	42人（連結）25人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス

事業内容

■ 事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、 農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (当社)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

業績の概要



連結業績

(単位：百万円)

	2021.6期 第2四半期	2020.6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,502	1,544	△41	△2.7
売上総利益	300	335	△34	△10.4
営業利益	17	24	△6	△27.6
経常利益	19	25	△5	△22.0
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	16	22	△6	△27.7



セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2021.6期 第2四半期		2020.6期 第2四半期	増減率 (%)
		構成比 (%)		
いちご果実・青果事業	1,363	90.7	1,406	△3.1
種苗事業	8	0.6	4	82.8
馬鈴薯事業	85	5.7	92	△6.9
運送事業	45	3.0	40	11.5
連結	1,502	100.0	1,544	△2.7



セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	2021.6期 第2四半期	2020.6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	93	112	△16.8
種苗事業	1	△1	—
馬鈴薯事業	4	△1	—
運送事業	1	0	3600.0
調整額※	△83	△83	—
連結	17	24	△27.6

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

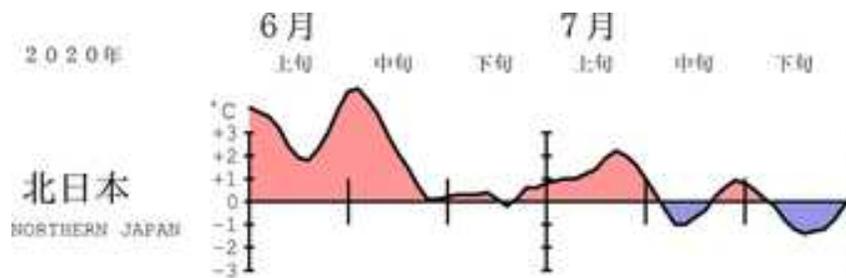
セグメント別の状況



いちご果実・青果事業—自社品種の出荷状況—

- 主力産地である北海道、東北において、6月中旬頃から7月末にかけて低温環境が続いたことで生育が停滞。本来、出荷数量のピークを迎えるはずの7月下旬も大幅に増加せず、高温に転じた8月上中旬の出荷数量が増加。
- 出荷ピークがずれこんだために、10月以降の株疲れからの回復が遅れ、10～11月にかけて出荷量が少ない状況が続く。

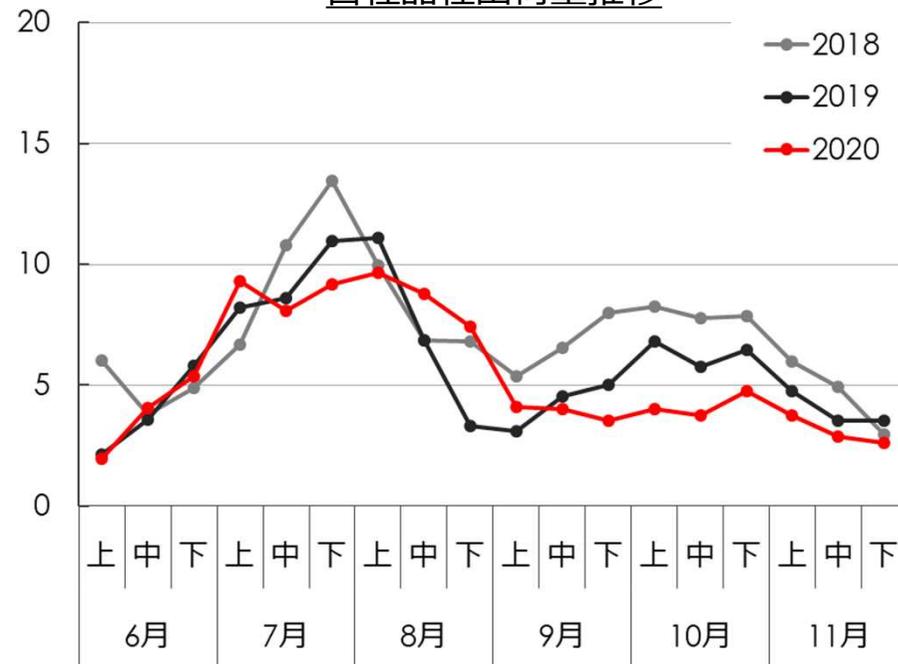
2020年6,7月の平均気温平年差



※気象庁ホームページより

(トン)

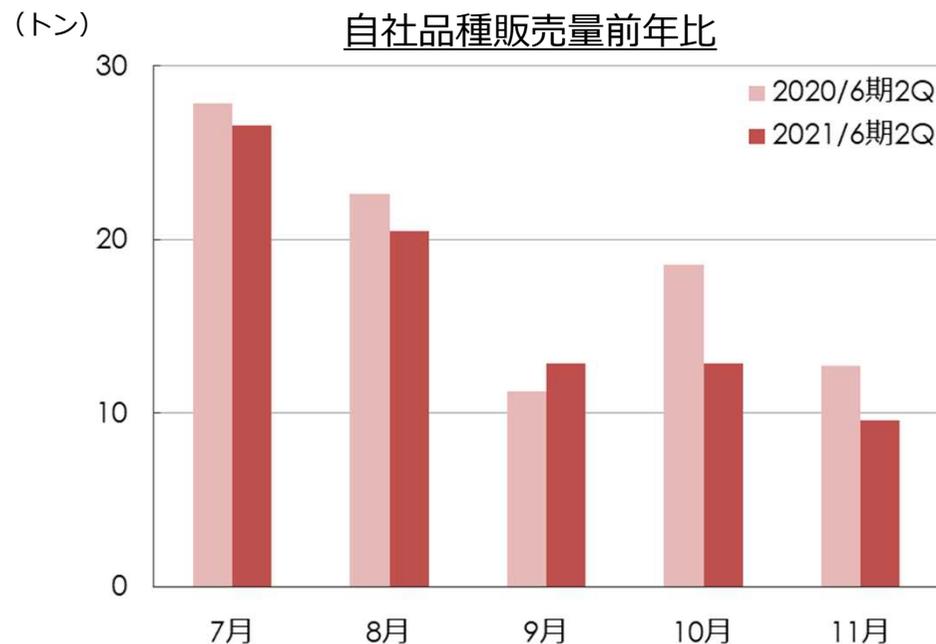
自社品種出荷量推移





いちご果実・青果事業—自社品種の販売状況—

- 自社品種「夏瑞／なつみずき」の認知度が着実に向上。
 - － 本年度より百貨店の生食向けギフト販売の取組みを開始、業務用としても販売エリア・店舗数が拡大。
- 想定外の時期（8月中下旬頃）に入荷数量が予定より増えたために量販店向け（生食用）の販売に注力するも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、果実販売に苦戦。
- 10月以降の出荷数量の回復が遅れ、入荷数量の少ない状況が続いたことで、10,11月の販売数量が十分に確保できず、売上高・利益ともに前年を下回る結果となる。

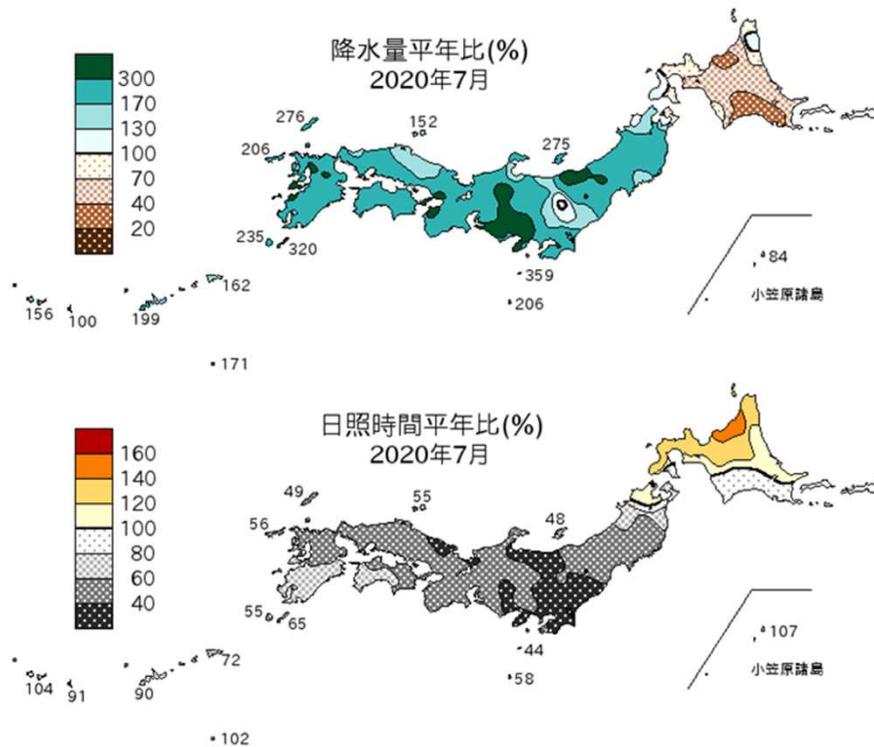




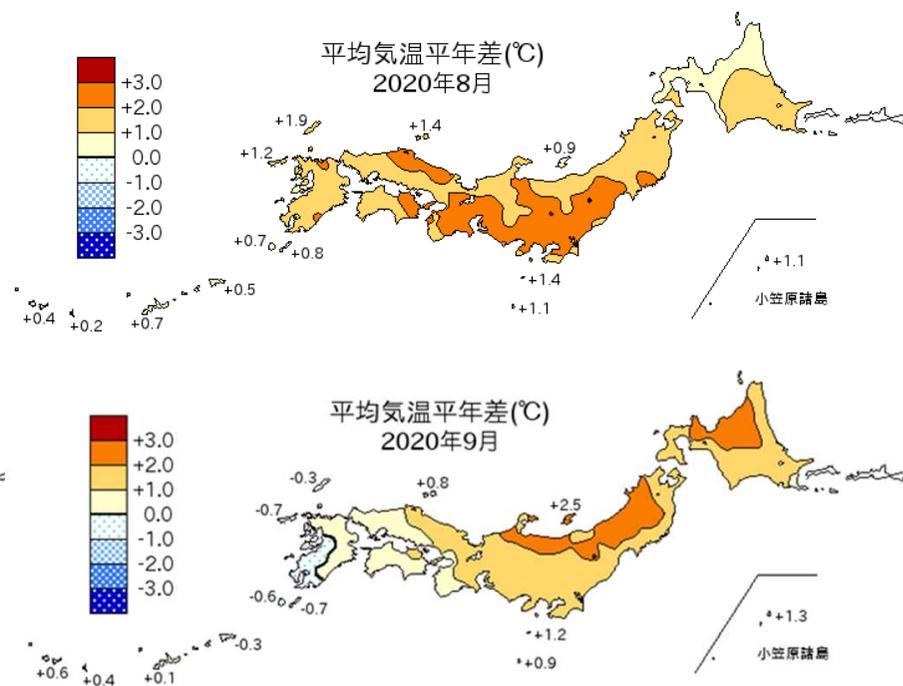
いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 促成いちごの育苗期にあたる7月の長雨、日照不足の影響を受け、病害が多発。
- 残暑が厳しく、促成いちごの定植時期に遅れが生じ、生育の大幅な遅れにつながる。

2020年7月 降水量・日照時間平年比



2020年8,9月 平均気温平年比



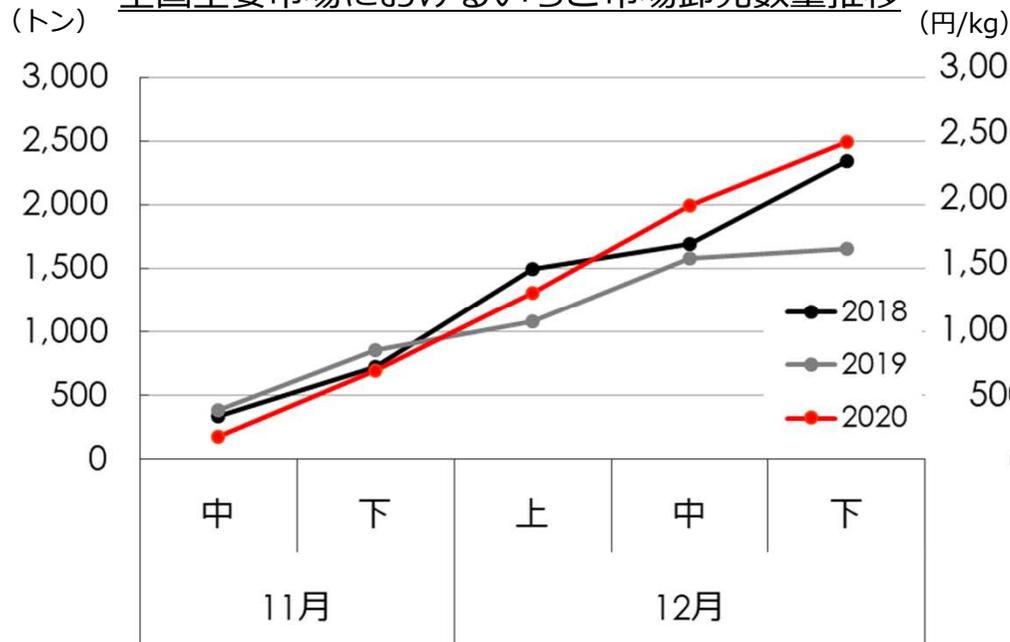
※気象庁ホームページより



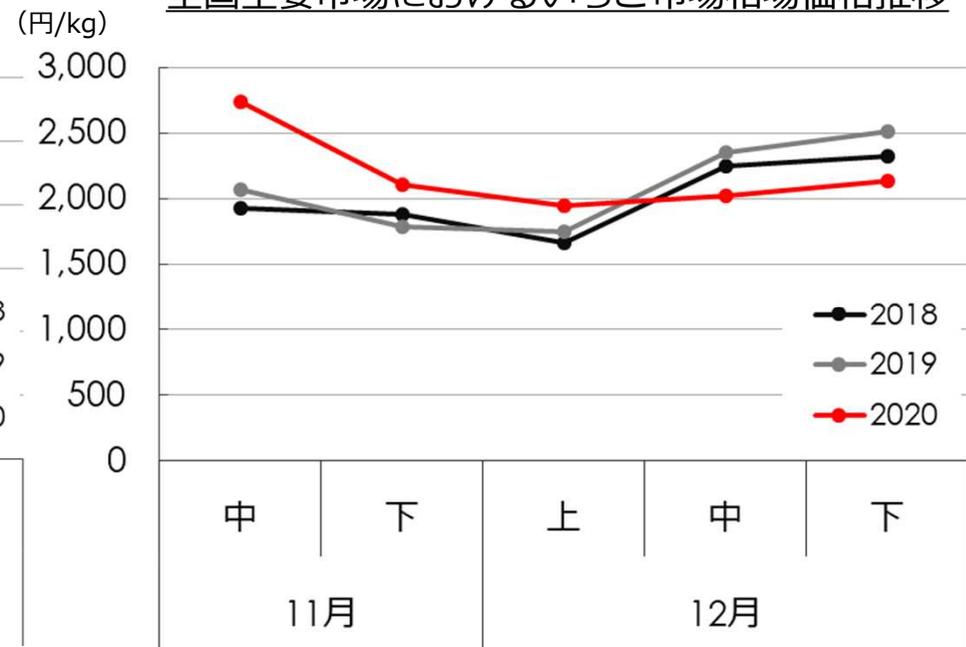
いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況②—

- 定植時期の遅れが出荷開始時期の遅れにつながる。12月に入り、ようやく市場へのいちご果実の入荷数量は大玉を中心に増えてきたものの、当社が主に取扱う業務用サイズの果実はクリスマスにかけて極めて少ない状況が続く。

全国主要市場におけるいちご市場卸売数量推移



全国主要市場におけるいちご市場相場価格推移



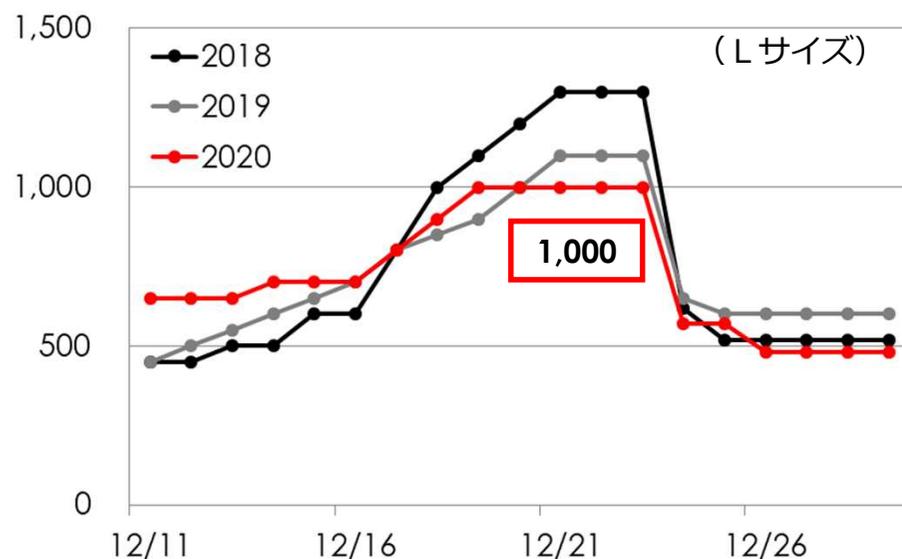


いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況③—

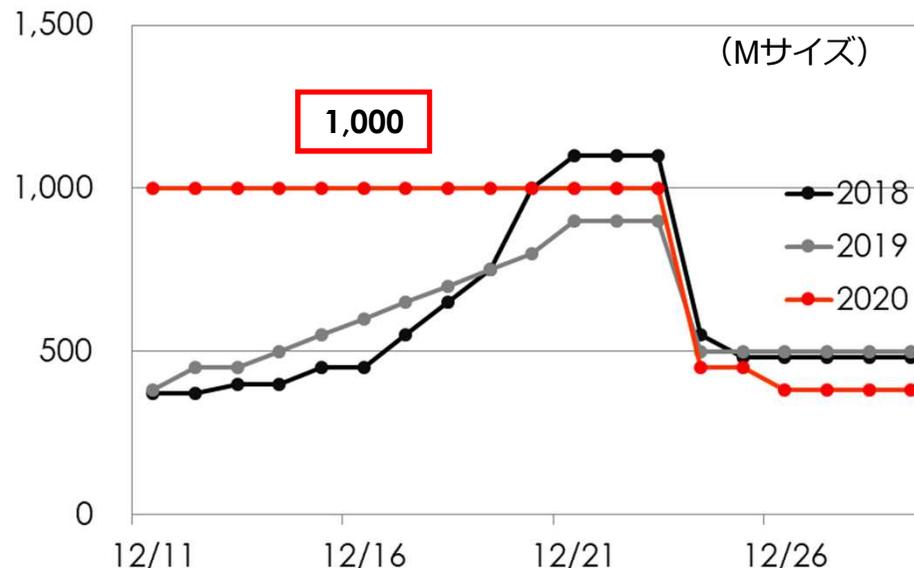
- 業務用サイズの数確保が困難であったこと、各メーカーのいちご果実の使用量減少も重なり、販売数量が減少。
- クリスマス直近になり入荷数量が増加したこと、各メーカーのいちご果実使用量も減少傾向であったために、クリスマス時期の市場相場価格は例年並みで推移。
- 12月上旬より小玉サイズを中心に、例年のないほどの高値が続いたことで、固定価格での販売先に対する利益が大幅に減少。

大田市場におけるいちご市場相場価格推移（業務用サイズ）

(円/パック)



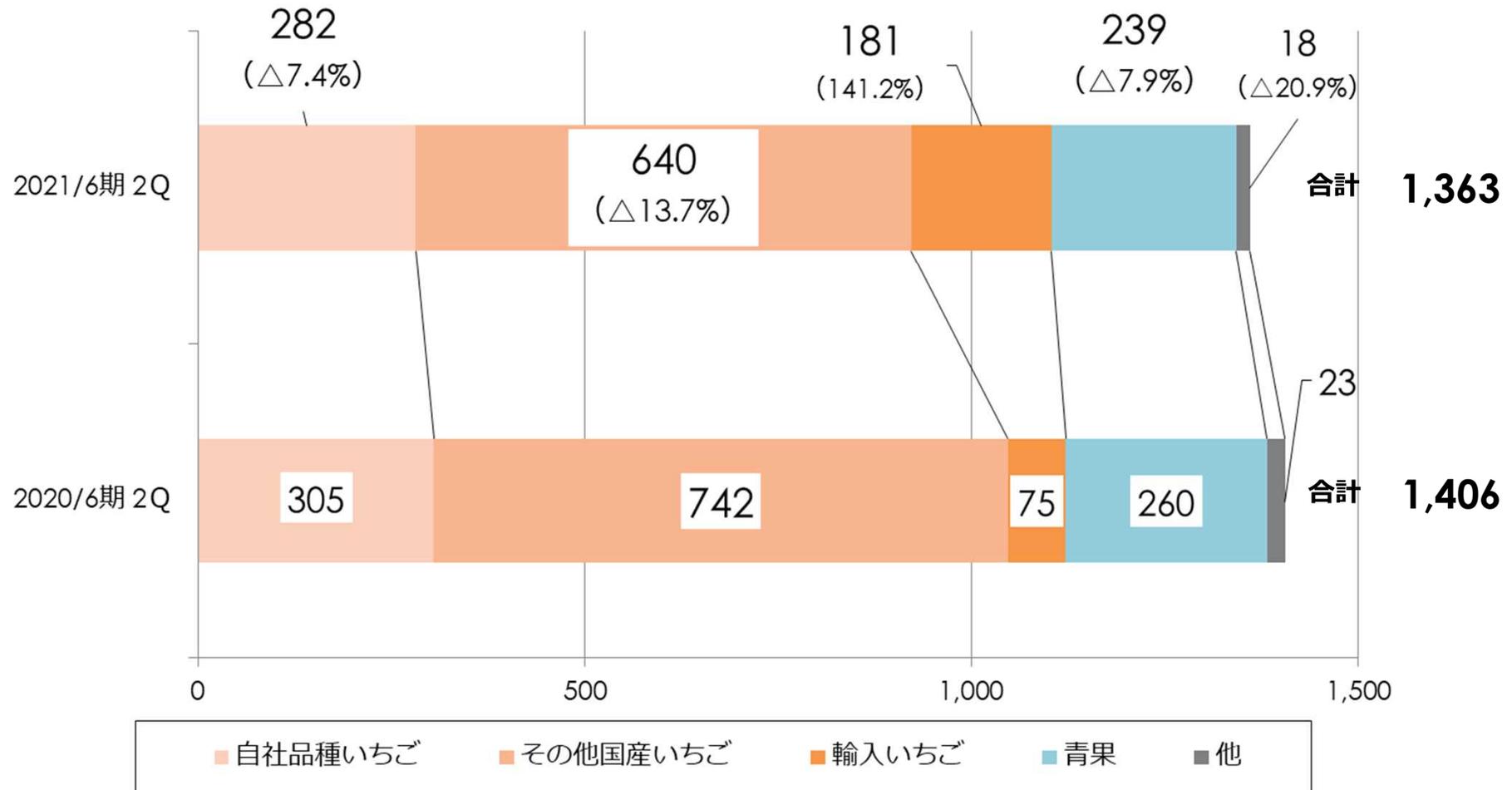
(円/パック)





いちご果実・青果事業一品目別売上高一

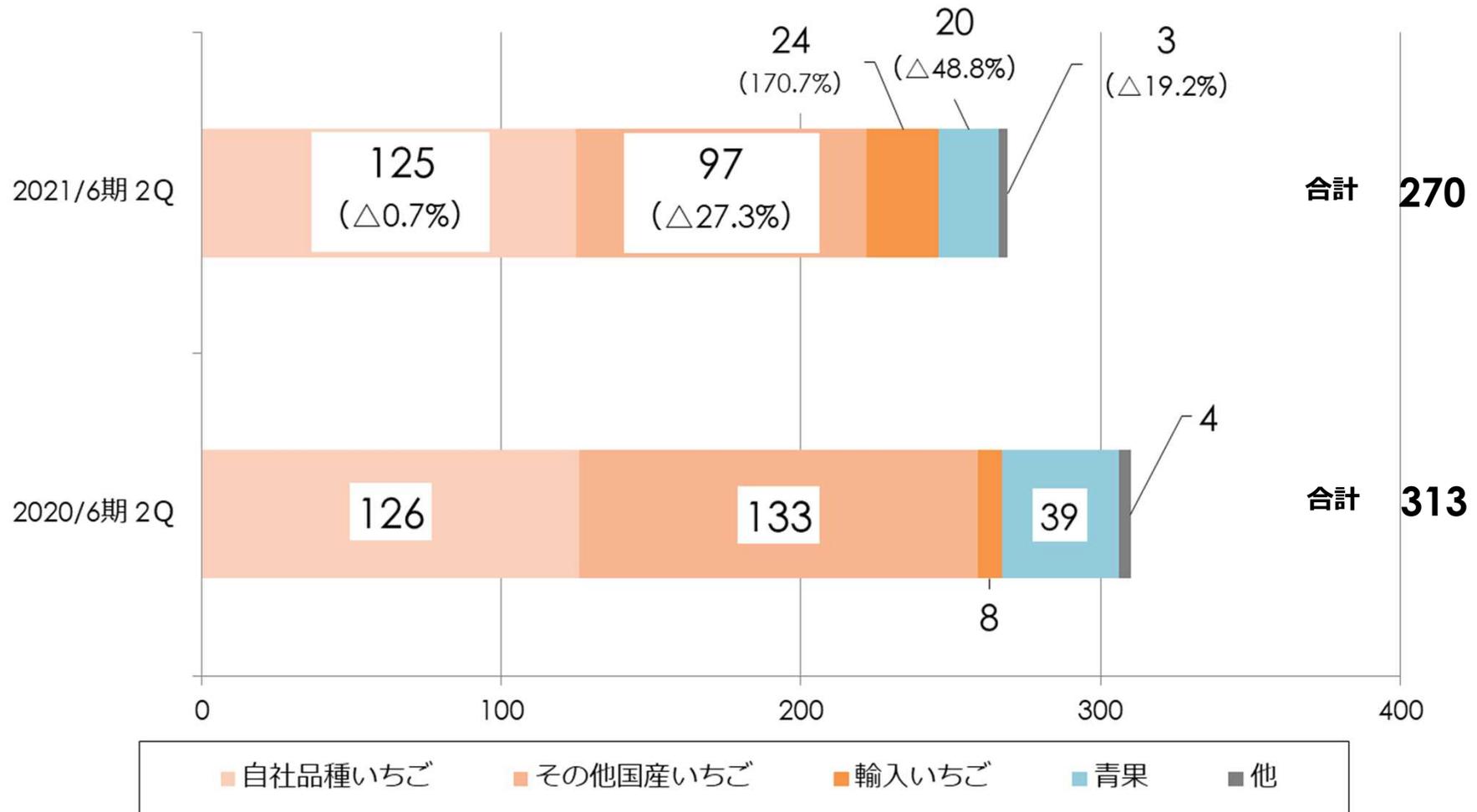
(単位：百万円)





いちご果実・青果事業一品目別総利益一

(単位：百万円)



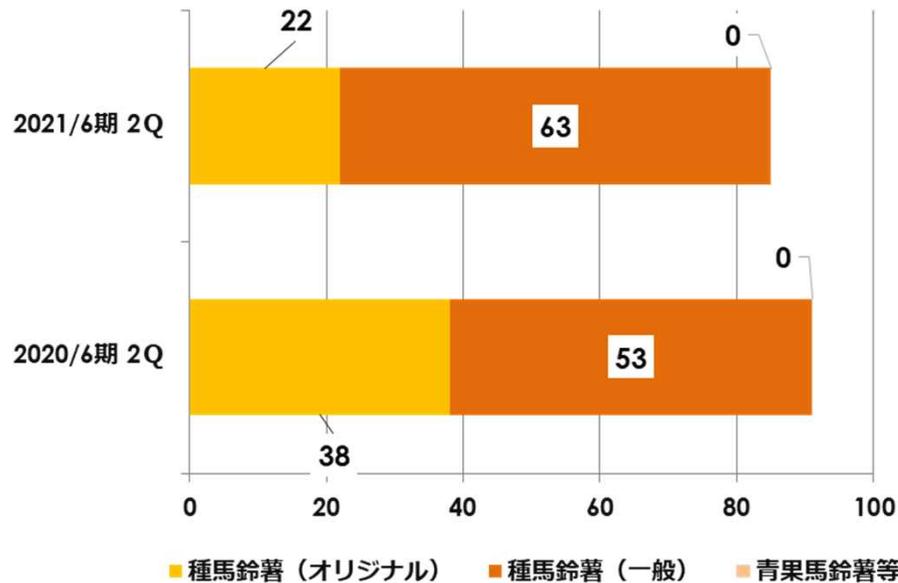


馬鈴薯事業

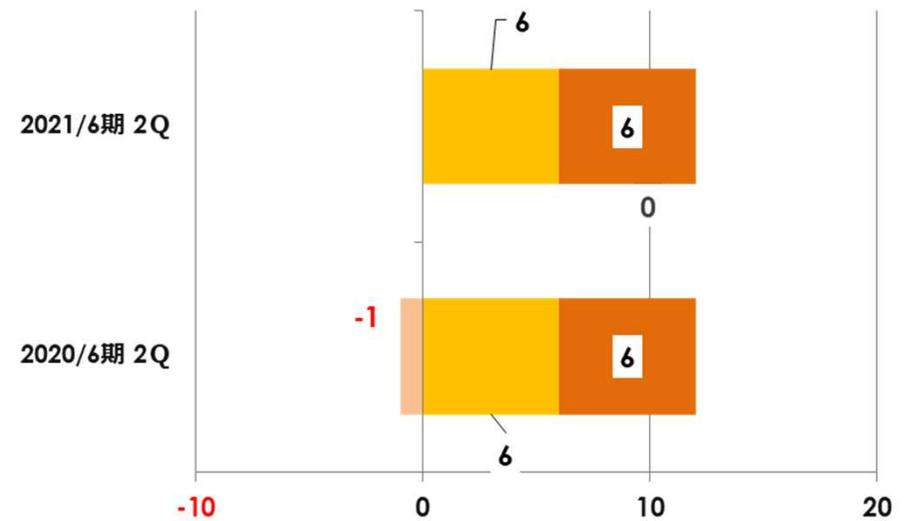
- 主力となる春作向け種馬鈴薯の販売において、産地の日照不足などの影響で生産量が大幅に減少。
- 販売数量の減少により売上高が減少したものの、採算性を重視した販売に注力し、利益を確保。

(単位：百万円)

2 Q馬鈴薯事業の売上高比較



2 Q馬鈴薯事業の総利益比較

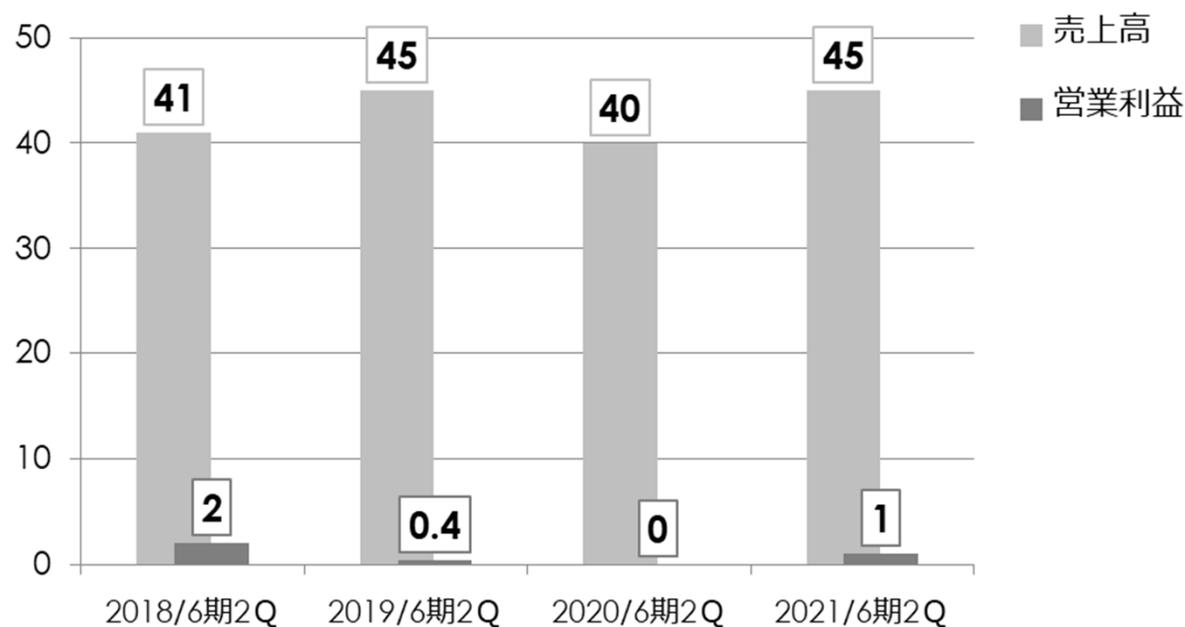


運送事業

- 新型コロナウイルス感染症の影響による一部配送休止はあったものの、自社配送の効率的な運用と経費削減に努めた結果、売上高、利益ともに増加。

(単位：百万円)

運送事業の売上高・営業利益の推移



※株式会社エス・ロジスティックスは平成25年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。



2021年6月期

連結業績通期の見通し

連結業績通期予想

(単位：百万円)

	2021.6期 通期予想	2020.6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	3,395	3,230	△165	5.1
営業利益	42	24	18	74.0
経常利益	44	26	17	65.8
親会社株主に 帰属する 当期純利益	35	28	6	21.9

* 上半期の連結業績と下半期の業績見込みを勘案し、当初の通期連結業績予想から予想数値を修正しております。



今後の対応

いちご果実・ 青果事業

- ・「夏瑞／なつみずき」の食味の良さを活かした全国的な販売展開。
- ・「夏瑞／なつみずき」のさらなる知名度向上に向けた営業強化。
- ・「コア」の収量性及び秀品率の高さを活かし、夏秋期の安定的な果実の供給。
- ・顧客への配送効率化を図り、配送コストなど販売管理費の抑制を継続。

種苗事業

- ・食味の良い「夏瑞／なつみずき」の特長を活かし、生食用を主体とした産地展開。
- ・収量性および秀品率の高い「コア」の特長を活かし、業務用の産地に展開。
- ・弊社の育種開発力を活かした、国内、海外での種苗事業の強化。

馬鈴薯事業

- ・海外オリジナル品種の種馬鈴薯の販売強化。
- ・適正な数量の仕入管理を行うことで、収益を確保。

運送事業

- ・提携業者の効率的な活用と、新規荷主獲得に向けた営業強化。